

67回目の碑前祭に100人

「無法松の碑」碑前祭を開催した。小倉北区古船場にある碑の前には、保存振興会メンバーをはじめ小倉北区自治総連合会幹部ら約100人が参加した。

式典は菅原神社宮司による修祓（しゅばつ）、祝詞（のりと）、玉串奉奠の後、無法松の碑保存会によって献酒、献鼓が奉納された。この後、アートホテル小倉ニュータガワで直会が催された。

無法松に想いをさせて

6年ぶりに直会復活

直会には90人が出席された。保存振興会の中村真人会長は「無法松の碑は昭和33年に古船場の有志が中心に建立された。無法松は岩下俊作が著した富島松五郎伝の主人公だが、その架空の人物を敬うという国内でも珍しい。それだけ小倉祇園太鼓を愛しているのだという証だ。この祭りを盛り上げていきたい」とあいさつした。

来賓24名を代表してあいさつされた、小倉北区自治総連合の肝付太郎会長は「今日は当連合会から13名の校区会長が参加している。無法松の碑と小倉祇園太鼓を守るには、次世代の担い手を育成しなければならない。保存振興会が太鼓塾や次世代担い手勉強会にも取り組んでいると聞いている。私たち連合会も伝統の継承に関わり、地域の発展に寄与したいと思う」と話された。



中村真人会長挨拶

このあと無法松の碑保存会や保存振興会メンバーによる太鼓披露もあり、直会は盛り上がりを見せて幕を閉じた。

これまでコロナウイルス感染拡大があったが、碑前祭の式典だけは続けていた。一方で直会は2020年から中止となっていた。今回6年ぶりの開催で、地域の方々と保存振興会の親睦が図られた。



無法松の碑
保存会
太鼓披露



肝付太郎自治総連合会
会長挨拶